



調査問題の誤答や質問紙調査の結果を基に、指導のポイント例を示しました。
先生方の日頃の取組を振り返ってみましょう。



調査問題（教科）の誤答から、指導のポイント例を示します。小学校にも中学校にも、また、すべての教科等にも当てはまることです。日常的にできているかチェックしてみましょう。

小学校国語

次の部分ウを漢字でいねいに書きましょう。
（…略…）、すみの方にウ つみ重ねられています。

全国で見られた誤答→「重」「罪」「績」

- ・文章中の平仮名を、習った漢字に直すという基本的な問題の正答率が低い。
- ・「罪」のように解答した児童については、「なぜこのように解答をしたのか」とその原因に目を向ける。



指導のポイント例

- 漢字に直す問題では、場面を想像しながら文全体を捉え、適切な漢字を用いるよう言葉掛けをする。
- 既習の漢字を日常生活の中で適切に使うことができるよう機会を捉えて指導する。
- 日記や生活ノート、連絡帳等、自分が書いた文章を読み返し見直す習慣が付くように、繰り返し助言する。

中学校国語

条件 2

条件 1 のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

条件 1

「文章の一部」から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書くこと。

本県の主な誤答→条件 1 で示されている引用がされていない記述

- ・「問われていること」や「条件の内容」などを捉えているか。



指導のポイント例

- 「問われていることは何か」や「条件はどんなことか」と問い返し、児童生徒が確認する機会を設ける。
- 問題文や条件で示された文が長い場合には、大切な情報に線を引くなどして、児童生徒自身が問題の意味を捉える工夫ができるよう助言する。

小学校算数

8 人に、4 L のジュースを等しく分けます。
1 人分は何 L ですか。求める式を書きましょう。

本県の主な誤答→ $8 \div 4 = 2$

- ・数量の関係を正しく捉え、立式することに課題がみられる。
- ・解答が正しいかどうかの見直しができているか。



指導のポイント例

- 問題場面を正しく捉えるために、大切な情報に印を付けるなどして問題文を読むよう助言する。
- 場面を想像しながら問題文を読み、答えの見当をつけることができるよう助言する。
- 具体的な生活場面を授業に取り入れ、日常の事象を数理的に捉えることができるよう指導する。
- 具体物を操作したり、絵や線分図等で表したりするなど、量感を大切に指導を繰り返し行う。

中学校数学

長さが 1 m の棒を地面に対して垂直に立てたときにできる影の長さについて、（…略…）調べました。

午前 8 時から経過した時間と影の長さ									
経過した時間(時間)	0	1	2	3	4	5	6	7	8
影の長さ(cm)	190	124	96	80	79	96	130	193	350

このとき、（…略…）「経過した時間を決めると、それにともなって影の長さがただ 1 つ決まる」という関係があります。

下線部を次のように表すとき、①と②に当てはまる言葉を書きなさい。

①は②の関数である。



本県の主な誤答→①に「経過した時間」、②に「影の長さ」と、反対に解答

- ・独立変数と従属変数の違いや関数の意味を捉えているか。



指導のポイント例

- 児童生徒が、教科の用語を用いて学習をまとめる機会を設定する。
- 学んだことを児童生徒が説明する場を設定し、定義を理解できるようにする。

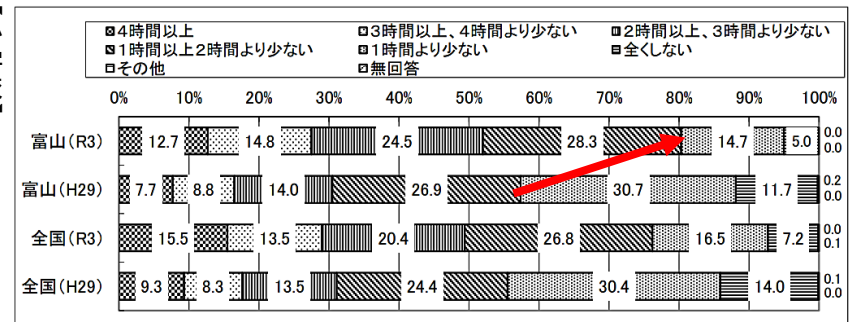


質問紙調査の結果から、日頃の指導を見直すことも大切です。

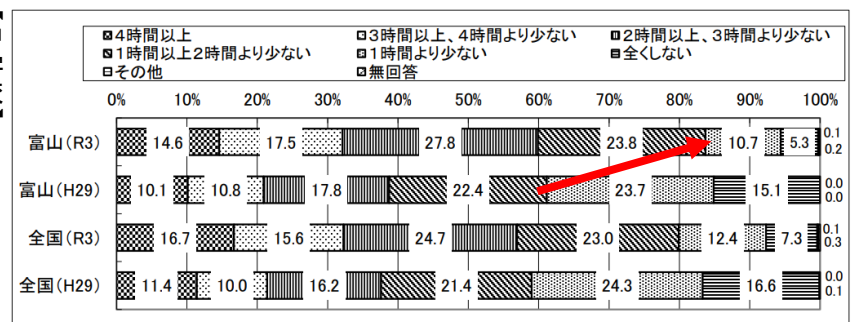
児童生徒質問紙(5)

普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

【小学校】



【中学校】



◆本県の結果から以下のような現状が見えてきました。

- ・「1 時間以上」ゲームをする児童生徒の割合が、全国と比べて高い。
〈小学校 +4.1 ポイント、中学校 +3.7 ポイント〉
- ・「1 時間以上」ゲームをする児童生徒の割合が、平成 29 年度より小・中学校ともに大変増加している（※矢印参照）。全国も増加しているが、増加の割合は本県の方が高い。
〈小学校 +22.9 ポイント、中学校 +22.6 ポイント〉



指導のポイント例

- 児童生徒の家庭での過ごし方について把握し、児童生徒が自らの生活時間を考える場を設ける。
- 生活時間について指導する際には、よりよい生活をするよさや意義に触れ、生活を改善していこうとする気持ちを養う。

学校全体として、次のような取組も有効です。

- ・生活時間見直し週間の設定等、家庭との連携の工夫
- ・児童会、生徒会による自主的なルール作り
- ・学校保健委員会等、専門家の話を聞く機会の設定

